

自治協ニュース

第0302号
発行者
八本松住民
自治協議会
R03. 07. 20

あいさつ運動 小学校からスタート

地域とともに進める あいさつ強化週間 児童会が企画



八本松小学校（校長土肥美由紀）は、6月21日（月）児童会（委員長 西田悠輔くん6年生）が企画した「あいさつ運動」（強化週間 21日から5日間）を開始した。

明るくて元気の良い学校を目指して

この取組みは、今年度八本松住民自治協議会と学校運営協議会が推進する「地域総ぐるみあいさつ・声かけ・見守り運動」の先陣をきっての取り組み。そのため、児童会が「あいさつ運動開始」を知らせる全校朝会（6月18日）には、土久岡住民自治協議会会長と信用同協議会福祉委員会委員長が小学校を訪れ、児童会に「あいさつ・声かけ・見守り運動」と書かれたタスキを手渡し激励した。

この、全校朝会で児童会委員長の西田



全校朝会で「挨拶運動」の始まりを告げる児童会の西田くん



自治協から挨拶運動のタスキを受ける児童会委員

くんは、「来週からあいさつ強化週間が始まります。みんな気持ちの良いあいさつをして八本松小学校を明るくて元気のいい学校にしましょう」と全校児童に呼びかけた。

初めて地域と一緒に取り組む「挨拶運動」

21日からの「あいさつ強化週間」には、午前中の休憩時間に、8名の児童委員がタスキをかけ校舎内をあいさつをして巡回し、声をかけられた児童たちから「おはよう」と元気のいいあいさつが返っていた。巡回を終えた児童会の柴田のぞみさん（5年生）は、「あいさつをして声をかけた時、皆が元気に返してくれてうれしかったです」と率直な感想を述べた。



みんな元気に挨拶しようと呼びかける児童会委員

も達が安心して挨拶できるよう「あいさつ運動」への協力が望まれます。



職員室前に「自治協ニュース」、玄関前に「ポスター」が掲示



玄関ホールに掲示された応募者全員のポスターと標語

7.6西日本豪雨 八本松で何が起きたか

八本松小学校

地域とともに進められる

児童の防災教育

八本松自治協

八小5年生 総合的な学習の時間



3年前の西日本豪雨の状況を学ぶ5年生児童

6月22日（火）、八本松小学校（校長 土肥美由紀）は、5年生（3クラス、104人）の総合的な学習の時間で3年前の7月6日から7日にかけて起きた7・6西日本豪雨での八本松の災害状況を地域の方（八本松自治協防災委員会）から学ぶ教室を開いた。

子どもたちは、当時の状況を記録した動画で、避難勧告が出された時（7月6日18時50分）、避難路は水路の氾濫で通行できない状況となっていたり、羽朝になっていたお土石流が道路を流れ下り、多数の岩石や流木が路上に残された映像で災害の怖さを感じたことと思う。

また、2号線バイパスや池や林が土石流の防波堤となり、幸いにも死者や行方不明者がなかったことも学んだ。映像の中には地域の方が協力して土嚢を積んで土石流の被害を軽減したり、災害後、地域の方々が子ども達とともに土石流により道路に残された土砂などを撤去する姿も紹介された。

地域センターに開かれた避難所でも73名もの多くの方が避難された。当時、避難所の資材はまだ少なく、工夫して避難者を受け入れたことや、地域の方の協力で作られた炊き出しに避難者の方が大変喜ばれたこと等が紹介された。

最後に、災害から尊い命を守るためのヒントが紹介され、3年前に八本松で起きた災害を学ぶ教室を終えた。

この学習は、児童の防災意識を高めるとともに、自分たちが調べた内容をまとめ、グループで地域の方々に発信する総合的な学習で今回は

「八本松で何が起こったのでしょうか」 児童に示された西日本豪雨被災状況



最初の学習。今後、現地調査などを行い、児童たちが何を感じ、どんな課題を洗い出し、どんな解決法を見つけたのか大変楽しみです。

